

豊かな海づくり等に向けての
浄化槽の整備促進等の提言書

令和6年5月

三重県環境整備事業協同組合

一般社団法人西日本閉鎖性海域連携推進機構

「豊かな海づくり」、「人口減少社会の到来」及び「災害に強い処理体制」の観点から優位性がある浄化槽の整備促進をはかり、「三重県生活排水処理施設整備計画」において浄化槽を主体とした整備とする見直しを行うこと。

1 豊かな海づくり

伊勢湾の水産資源の減少が深刻化し、その要因として湾内に流入する栄養塩不足が指摘されているところ、三重県域から流入する栄養塩量は小女子が禁漁となった2016年以降も減少傾向が続いています。

この減少理由について調査を行ったところ、下水道の整備促進に伴い、適度に栄養塩量を排出する浄化槽を廃止し下水道に取り込んだこと等によること明らかに became ました。

先般、流域下水道施設においては栄養塩類を多く排出しようとする管理運転の試行を行っていますが、浄化槽の排出水濃度レベルまでの運転には至らず、伊勢湾の貧栄養化は一層進むことが懸念されます。

このことから、「豊かな海づくり」の観点から、下水道の整備はマイナスに作用するため、浄化槽の整備促進をはかるべきです。

2 人口減少社会の到来

今般、人口減少が急速に進展し、今後の人口減少社会を見据えた的確な対応が強く求められているところ、公共的インフラとなる生活排水処理体制のあり方については、中長期的な視点から、人口動向に適応した整備・維持運営体制を構築する必要があります。

生活排水処理施設には下水道、農業集落排水処理施設、浄化槽等があり、今後の人口減少社会の到来を踏まえると、集合処理から浄化槽への個別処理体制への転換をはかるべきです。

3 災害に強い処理体制

令和6年1月に発生した能登半島地震においては、強い揺れと液状化により能登6市町の下水管の過半被害が生じ、過去の地震と比べ突出しているとの報道がありました。また、同年2月には（公社）土木学会から「特に上下水道については分散型・自給自足（オフグリッド）型のインフラの導入についても検討する必要がある」との意見が出されています。

広域処理の下水道は、個別処理の浄化槽に比べて地震災害に影響を受けるリスクが高いことから、県民生活への影響を低減化する観点から浄化槽の整備促進をはかるべきです。